

# 看護学部開設からの6年間を振り返って

杉本 陽子

岐阜協立大学 看護学部

(元) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 教授

---

寄 稿

---

## 看護学部開設からの6年間を振り返って

杉本 陽子

岐阜協立大学 看護学部  
(元) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 教授

キーワード： 看護学科，学生の特性，カリキュラム改正

---

### 要 旨

---

2014年4月三重県における看護教育機関として4つ目の看護系大学となる鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科が開設された。4つの看護系大学は津市，四日市市，鈴鹿市に位置し，県中央部に集中していることから，本大学は，三重県全域での看護専門職者の育成や充実を図ることの課題を認識しながらの出発となった。看護学部開設時から在職した6年間について，看護学科の管理運営，第1期生の特性を踏まえた講義の工夫，2016年から取り組んだカリキュラム改正の経緯について，白子キャンパスに咲いた桜の思い出とともに振り返った。

2014年4月三重県における看護教育機関4つ目の看護系大学として、鈴鹿医療科学大学看護学部が開設されました。看護学部開設時から在職しました6年間について、桜の思い出とともに振り返りたいと思います。

2014年4月1日(火)辞令式、看護学部教員は他部署からの配置換え教員も含めて22名が着任しました。4月2日(水)入学式、第1期生99名が入学しました。4月3・4日(木・金)新入生オリエンテーションを経て、4月7日(月)講義が始まりました。1限目は「英語I」でしたので、確か3号館での授業だったと思います。看護学部校舎4号館が静まり返る中、私は3階研究室で9:30授業開始のチャイムがさやかに響くのを聞きました。三重県の看護系大学は津市、四日市市、鈴鹿市と、県の中央部に集中していますので、南北に長い三重県を俯瞰したとき、県全域での看護専門職者の育成や充実を図ることの課題を認識しながらの船出となりました。

#### ❖ 満開の桜並木に迎えられ

無事船出する 鈴鹿丸かな

着任したその日に第1回看護学科会議が開催されて以降、取り扱った議題は、学生用ユニフォーム、臨地実習要項、学科ホームページ、教育研究機器の整備、地下ロッカー室の管理、学科予算等々、あらゆる案件がありました。月1回の会議では追いつかず、月2回の開催とした時期もありました。さまざまな背景の教員が集まっており、当然ながら異なる価値観がありますので、意見を集約し意思決定していくプロセスには、率直な意見交換ができる環境であること、性急に進めるのではなく、さまざまな意見をもう一度振り返る時間の余裕をもつことが大切であると思いました。

私の1年目の授業は、後期の「生涯発達論」でしたが、小児看護学の科目は2年次からでしたので、1年目のさまざまな時間の中で学生と交流することができて、第1期生の特性を知ることができたことは、2年目の授業の構想を考えることにとっても役立ちました。大学が国公立であっても私立であっても、看護として学ぶべきことは同じであると思います。看護専門職者として社会から求めら

れる資質に違いはなく、国家試験受験資格を得て合格するという関門も同じです。工夫するとすれば、その大学が目指す専門職像や学生の特性に合わせた授業方法や内容だと思います。第1期生は、総じて看護を学びたいという動機が明確で、意欲が高く行動的であったと思います。早く実践力を身につけたい、実践的な講義を受けたい、具体的な看護の方法を学びたいという思いが強く、体験型学習を求めていると感じました。一方、2年次開講の「小児看護学概論」は総論的な講義科目ですので、学生の興味を引くための工夫が必要となります。そこで、たとえば「子どもの食と栄養」という単元の場合、本来の講義内容に加えて、低出生体重児、1型糖尿病や先天性心疾患をもつ子どもの栄養といった臨床的な内容を含めて授業をすることで、学修への関心を高められると考えて行うことにしました。

2年目が終わるころになると、教員からカリキュラムの学年配置、学修進度や順序性に課題があること、学生の理解に課題があることを指摘する声が聞かれました。そこで、2018年度入学生(第5期生)適用を目的にカリキュラム改正することとなり、2016年4月カリキュラム改正検討委員会が立ち上がりました。学部開設時の教育理念、目的、目標や3つのポリシーを改めて見直しながら、カリキュラム改正案、臨地実習予定案を作成しつつありましたが、文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討委員会」が立ち上がっていることの情報が入りましたので、いったん委員会活動を休止しました。2017年10月文部科学省から『看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～』が公表されましたので、2017年11月委員会活動を再開し、2020年度入学生(第7期生)適用のカリキュラム改正案の作成に取り組みました。改正の骨子は、人体の理解や個体内の生命現象の理解を強化したこと、領域別臨地実習を3年次後期に配置し、学年ごとの到達目標を明確にしたこと、地域・在宅で暮らす人々への看護実践力の育成を強化したこと、看護の統合3科目を再配置したことです。

2018年3月14日(金)学位授与式が執り行われ、ついに第1期生86名が卒業のときを迎え、看護専門職者

として巣立つこととなりました。AI（人工知能）やロボットがどんなに進化して、医療に取り入れられていったとしても、人が人に向き合う仕事は未来永劫続いていくことを信じ、その心がこれからも第2期生、第3期生へと引き継がれていくことを信じています。

❖ 満開の 桜のものと始まりは  
新たな始まりを生む 看護の心 未来永劫

白子キャンパスで咲く桜は、1年として同じ姿はありませんでした。

1年目「桜吹雪」：2014年4月10日（木）第1回教授会の日はものすごい強風で、膨大な桜の花びらが真横に飛んでいく窓越しの景色は圧巻でした。

2年目「躍動の桜」：2015年4月2日（木）咲き誇る桜の下、スーツ姿の若者が「入学式会場→」の看板に向かって走っていく姿に躍動を感じました。

3年目「雨の桜」：2016年4月4日（月）入学式は雨でしたが、桜は咲きかけでしたので、雨に濡れるつぼみに風情がありました。

4年目「2度咲く桜」：2017年4月いつものように桜は咲きましたが、翌年3月が季節外れの暖かさであったため、2018年3月27・28日に早くも咲き始めました。

5年目「散る桜」：3月末に咲いた桜は2018年4月3・4日にはもう散り始めていました。

6年目「さまざまな桜」：2019年4月2日（火）入学式、構内を歩く道によって、満開、5分咲き、7分咲きと、桜並木の様子が異なり、今年はちょっと違う!と思いました。前年夏の気候が荒れ模様であったことで、桜の花芽がきちんと作られなかったからだろうということです。

2018年12月19日（水）看護学科会議において新カリキュラムの承認を得て、その後、理事会承認を得たのち、2019年8月27日文科科学省より保健師学校等の変更承認、9月6日看護学部収容定員増の認可を受けました。2年10か月に亘る委員会活動はその役割を終えまし

たので、入学定員が100名となり、2020年度新カリキュラムで始まる新たな看護学科は次の世代に任せたいと思い、私の最後の公的な場となった看護学科会議を2020年3月18日（水）に終えました。

❖ 清々し 咲いて 散り際 潔し  
桜の花の ごとくに生きん

私は、今、自動車通勤をしています。左右の養老山地と揖斐川に挟まれながら国道を走り、新多度橋を渡ると、今度は前後のトラックに挟まれながらトコトコと走ります。養老町に入ると、一面の濃尾平野が視界のすべてとなって、そのあまりの広大さに、平野という大地がこんなに人の心を平にしてくれるのだということに静かな感動を覚えます。遠景に伊吹山地を眺め、あれが伊吹山(?) たぶん(!)と心で会話しながら、市街地を通り抜けると、まもなく勤務地に到着します。このような通勤模様と心模様の日々を過ごしつつ、清々しく咲いて潔く散っていった桜を思いながら、これからの時間に向き合っていきたいと思っております。

最後になりましたが、在職中の皆様のご厚情に心より感謝申し上げますとともに、未来永劫続いていく貴大学の益々の発展と教職員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

6年間ありがとうございました。

#### — プロフィール —

杉本 陽子 岐阜協立大学看護学部・教授 修士（学術）

〔経歴〕2000年大阪教育大学教育学研究科健康科学専攻修士課程修了、2001年三重大学医学部看護学科教授、2014年鈴鹿医療科学大学看護学部教授、2020年現職。

〔専門〕小児看護学、小児がん看護。

# Looking back on the 6 years since the establishment of Faculty of Nursing, Suzuka University of Medical Science

Yoko SUGIMOTO

School of Nursing, Gifu Kyoritsu University  
(former) Professor, Faculty of Nursing, Suzuka University of Medical Science

**Key words:** Faculty of Nursing, Student characteristics, Curriculum revision

---

## Abstract

In April 2014, Faculty of Nursing at Suzuka University of Medical Science opened as the fourth college for nursing education in Mie Prefecture. As all the four colleges are located in the central part of the prefecture, our university has been aware of its responsibility to train and enrich nursing professionals from a view points of all over Mie prefecture since it was founded. I have looked back on the six years I spent here since the Faculty of Nursing opened, focusing on the management and administration of Faculty of Nursing, devise of lectures based on the characteristics of first year students, and the history of the curriculum revision.